

北海道大学、新型コロナウイルス唾液PCR検査の精度が約90%

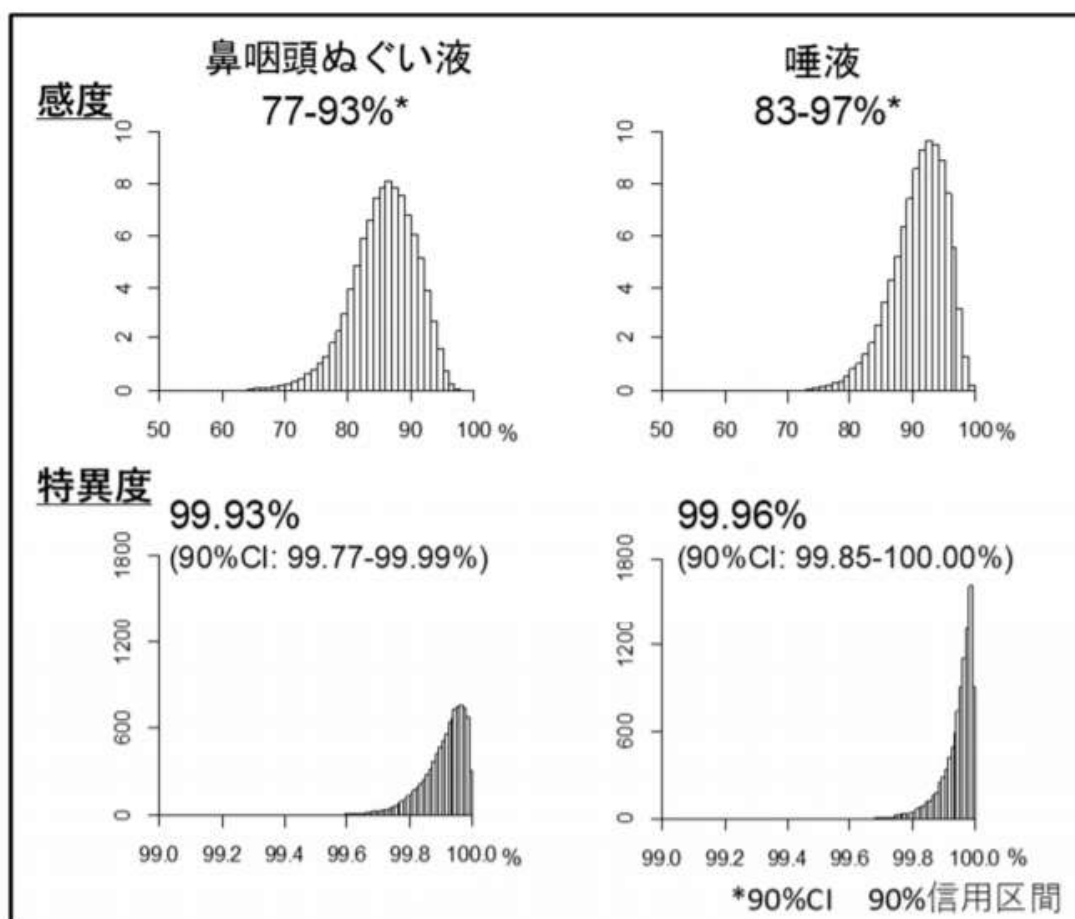
新型コロナウイルスの感染爆発を防ぐには、濃厚接触者など無症状者から新型コロナウイルス感染者を発見し、感染伝播をブロックすることが重要になります。今まで、初期の小規模な研究結果より、PCR 検査の感度は 70%程度と考えられており、さらに唾液 PCR 検査の感度は明確ではありませんでした。



9月29日記者発表会、右から、北海道大学病院長 秋田 弘俊、北海道大学大学院医学研究院 教授 豊嶋 崇徳、准教授 横田 勲

今回、北海道大学大学院医学研究院の豊嶋崇徳教授らの研究グループは、空港検疫および保健所での濃厚接触者、計 1924 名の無症状者から唾液と鼻咽頭ぬぐい液を採取し、PCR 検査を実施しました。その中から、陽性者は唾液 48

例、鼻咽頭ぬぐい液 46 例であり、それぞれの感度は 83-97%対 77-93%、特異度は両者ともに 99.9%以上でした。また、陽性例のウイルス量は両者で同等でした。



図：鼻咽頭ぬぐい液と唾液による PCR 検査の感度と特異度

感度は感染者のうち陽性判定された割合、特異度は非感染者のうち陰性判定された割合を示す。

以上の結果から、PCR 検査の感度は従来いわれていた 70%を遥かに上回る約 90%であり、特異度も極めて高く、信頼できる検査であることを明らかにし

た。また、鼻咽頭ぬぐい液の採取場所や採取者、感染防御具を必要とせず、採取者の感染リスクや被採取者の不快感もないため、スクリーニング検査の標準法として推奨できます。

【論文情報】

タイトル : Mass screening of asymptomatic persons for SARS-CoV-2 using saliva

雑誌 : Clinical Infectious Diseases

DOI : 10.1093/cid/ciaa1388

研究成果発表資料

<https://www.huhp.hokudai.ac.jp/news/2020-09-29/>

編訳 JST 客観日本編集部